

総括評価表

重点課題 1

「質の高い授業の展開と確かな学力の向上」

重点目標	自己評価		学校関係者評価		今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価	総合評価	総合評価(評定)	
(全体レベル) 指導方法の工夫・改善を行い、基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等、確かな学力の向上を図る。	評価指標 生徒の総合的評価「授業満足度」85% (前79.5%)	評価指標による達成度 生徒の総合的評価「授業満足度」 *臨時休業のため未調査	評定 B	総合評価 B (所見) 補習とともに、個別、グループ指導を効果的に展開できた。双方のメリットを生かし、生徒の性格等も考慮しつつ継続していく。家庭学習の習慣化に向けては、さらなる取り組みを要する。学ぶ意味等を自覚させ、読書を含めて学ぶ習慣を身につけさせていく。学習効果を上げるためには、身体的健康の維持・増進を図ることも大切である。健康と生活習慣の改善等についてもアプローチしていく。	B
	①進研模試3教科 1年7月→2年11月 過回対比偏差値45.0以上の人数比較 73.0% (前70.0%) ②1日の平均学習時間 1.0 時間未満の 生徒数60以下 (前71人) ③生徒による授業評価「理解が深まっている」生徒85% (前年度81.7%) 「興味・関心が高まっている」生徒80% (前年度77.3%) ④ 朝食摂取率 90%以上 栄養バランス度 70%以上 ⑤図書貸出冊数一人 10.0冊 (前7.2) 入館者数前年度比 10%増 (前26.5%減) ⑥進路意識度 85% (前80.9%)	①進研模試記述3教科1年7月→2年11月 過回対比偏差値45.0以上の人数比較 71.9% ②1日の平均学習時間 1.0 時間未満の 生徒数 65 人(2020.1.9 調査) ③生徒による授業評価「理解が深まっている」生徒 「興味・関心が高まっている」生徒 *臨時休業のため未調査 ④ 朝食摂取率 92.5%以上 栄養バランス度 78.3%以上 ⑤図書貸出冊数一人 7.5冊 入館者数前年度比 30.6%減 ⑥進路意識度 83%	評定 B 補習とともに、個別、グループ指導を効果的に展開できた。双方のメリットを生かし、生徒の性格等も考慮しつつ継続していく。家庭学習の習慣化に向けては、さらなる取り組みを要する。学ぶ意味等を自覚させ、読書を含めて学ぶ習慣を身につけさせていく。学習効果を上げるためには、身体的健康の維持・増進を図ることも大切である。健康と生活習慣の改善等についてもアプローチしていく。 学力の基礎・基本とともに、いわゆる「学ぶ力としての学力」の向上に努めていく。	総合評価 B	
(下位組織レベル) ①基礎学力、受験学力の向上 ②家庭学習の習慣化と家庭との連携 ③教科指導力の向上と授業の質的転換 ④生活習慣の改善と健康管理 ⑤読書習慣の定着化、読書内容の向上 ⑥進路意識の高揚	活動計画 ①-1学力養成講座(補習等)の効果的な実施と時間の確保(※) ①-2 個別指導の効果的な実施と学習環境整備(※) ①-3基礎的・基本的知識等の定着(※) ①-4学校生活のゆとり確保と学習レディネスの形成 ①-5 主体的な活動の推進と記録の蓄積 ②-1学習時間記録の効果的な活用(※) ②-2学習週間課題の効果的な提供(※)	活動内容(取り組み) ①-1 カリキュラムを改編し、週2日(月・火)の放課後、2時間の補習時間を確保した。3年生は朝補習のほか、小論文、面接等の指導を組織的・計画的に実施した。各学期に2日(6/15, 22, 9/21, 28, 1/11, 2/15)土曜補習(英数国3教科, 180分)を実施した。 ①-2個別指導の場を工夫するとともに、保健室等を活用し進路に応じたグループ別指導を実施した。定期考査後、学習学級全体の解答傾向を分析し生徒に解説した。欠点保持者に対して個々に学ぶ手立てをきめ細かく指導した。 ①-3 単元の途中などに適宜ミニテスト等を導入し形成的評価を行うとともに、課題テストを実施し、基礎・基本的内容についての理解度を把握した。 ①-4朝のSHR後1限目開始まで5分から10分に、昼休みを35分から40分に校時程を変更した。 ①-5年度当初、松契ファイル(総学ファイル)を作り主に「総合的な学習・探究の時間」の活動を記録し綴った。(1, 2年) ②-1HRで到達目標を設定し、「みんなで頑張っていく」という雰囲気を醸成した。定期的に集計結果を示し、現状を知り改善点を見つけさせた。 ②-2定期考査前1週間を学習週間とし、各教科のバランスを取りながら取り組みやすい課題、時間がかかる課題等を織り交ぜて提供した。	成果と課題 ①-1学習時間が確保でき、授業の学び直し、授業では扱われないハイレベル学習ができた。受験の基礎学力、応用力を養うことができた。より集中して学習する習慣や生活リズムの定着、苦手科目の克服と得意科目のレベルアップへの組織的支援ができた。 ①-2限られた学習環境を有効に活用し、落ち着いて学べる場を拡げることができた。生徒個々のニーズに応じた学びの提供と弱点の克服に資することができた。同じ進路を目指す者同士の相互刺激により、学ぶ意欲の向上につながった。 ①-3基礎・基本的な内容についての理解度を把握できた。生徒は「学んだこと」「学ばなければならないこと」を知り、学習の難となる原因を見つけるのに役だった。結果に応じた適切な事後指導が課題である。 ①-4教室移動のゆとりが確保されるとともに、これから始まる授業に対する準備態勢が整った。学習レディネスが形成された。 ①-5活動を通して世の中に対する視野が広がり、自分、社会、未来が見えてきた。「活動後の記録」の習慣化が課題である。	学校関係者の意見 職員朝礼から朝のSHRまでの時間に余裕を持たせたのは良いことだと思う。	①-1 朝補習の充実 ①-2 継続実施 ①-3 形成的評価の工夫と事後指導の徹底 ①-4 授業開始前予習の習慣化 ①-5 活動記録の習慣化、記録方法の指導 ②-1教科担任とHR担任の日常的な連携 ②-2生徒の意識変革と自力学習力の育成 ②-3欠席保護者への

②-3学年別進路保護者会での効果的な情報提供(進路, 幹団)	②-3昨年度に引き続き2学期に計画した。2, 3年生は外部講師による講演, 進路状況等の説明, 1年生は本校教員が保護者の目線にたち, 生徒実態を考慮した分かりやすい講演を行った。学年懇談, 個別面談後, 進路室にて保護者の疑問等に進路指導主事が対応した。	②-3 学校と家庭との情報連携が活性化し, 教員の考え方を伝えながら生徒を保護者とともに育てていくスタンスができつつある。保護者の気づかなかった発見があり, 学校への求心力が高まった。各学年とも保護者の参加率が減少傾向にある。参加者増と欠席保護者への対応, 懇談・面談の「個」的から「組織」的への変革が課題である。	対応, 「組織」的懇談・面談の実施, 外部講師の有効活用, 教科指導の重点目標の説明	
②-4 教科別学習ガイダンスの充実(各教科)	②-4各教科に授業目標, 日々の学習方法(予習, 授業, 復習, 単元終了後), 評価の観点, 評価方法等を説明し, 効果ある学習スタイルの確立を促した。	②-4学習習慣や学習スタイルを見直し, 進路実現に向けての勉強方法を身につけるよい機会となった。	②-4入学前後のガイダンス強化	
②-5 予習を前提とした授業展開の工夫	②-5授業の途中や終わりに, 次回の授業に関連した簡単な課題を出した。これに取り組みさせることにより, 新しい興味・関心, 知識をもたせ, これらを応用して問題を解いたり議論した。	②-5生徒の興味・関心や疑問を授業に活かす。生徒のアイディア等を活かしながら, 自分の持ち味を出した授業展開, 教科書にとらわれないユニークで効果の高い授業を行うことができた。	②-5 継続実施	
③-1授業公開, 研究授業の活性化(各教科, 部外)	③-1公開授業週間(9/14-26, 11/1-14)を計画し相互に授業を見せ合い, 授業改善及び授業力向上研修を効果的に実施した。空き時間が同じ教員が教科を超えたチーム, ペアになり授業を参観し, 放課後等を利用してインフォーマルな事後研修を行った。	③-1教科ではなく学習という視点で授業を考え, 生徒の学びを追求できた。今後, インフォーマルであっても, 「授業分析の視点」を設けるとともに, 参観者がその視点にそって記録し, 記録を整理し授業内容を検討する方法を考案していくことが必要である。	教室に設置された電子黒板の活用を通して質の高い授業実践をして欲しい。 教員が他の教員の授業を見学する取組は続けて欲しい。	③-1教科会の学習機能の活性化
③-2生徒による授業評価の工夫(各教科, 部外)	③-2各教科の具体的な実践につながる授業アンケートを年度末に実施する予定であったが, 臨時休業のため実施できなかった。	③-2次年度も全教科共通項目のアンケートから専門性に配慮した, 教員の自発的な提案に基づくアンケートへと発展しつつ効果的な授業改善につなげている。	③-2継続実施	
③-3授業力向上授業改善研修の実施(進路, 部外)	③-3 8/30総合教育センター教育情報課から講師を招いて, 「授業におけるICTの活用」についての研修会を開いた。電子黒板, プロジェクター等の効果的な使用等について学んだ。	③-3 インターネットに存在する動画やインタラクティブなコンテンツの利用により, 文章と写真だけでは理解しづらい内容も容易に理解させることができた。板書する必要が減り, 教材準備時間も削減できた。	③-3大学教授等の講師招聘	
③-4生徒中心の考える授業の展開(全教科)	③-4 教師からの一方的な説明だけでなく, 重要な部分では生徒に質問を投げ生徒相互で意見交換するなどの活動を取り入れた。	③-4 生徒同士が互いに学び合う場となり, 生徒自身が疑問を感じその内容を突き詰める姿勢が培われた。思考の活性化がなされ学びの質が深まりつつある。	③-4 リフレクションの実施	
③-5近隣中学校との連携(進路, 教務)	③-5 1/23 「中高連携に係る授業実践交流研修会」を本校で実施した。吉野中学校から4名来校し公開授業(1年 数学)のあと意見交換を行った。	③-5意見交換等により, 中高の単元の関連や系統性を相互に確認できた。中学校での発展的な学習の指導等に役立てることができた。	③-5教え合い学び合う生徒間交流	
④-1「保健だより」による啓発(保健, 専任)	④-1, 2 毎月1回発行し, 保健行事の連絡, 心と体の健康について生徒・教職員に周知した。特に5, 6月号は生活実態調査の結果を示し, 学力向上とのつながりを紹介した。(朝食摂取と脳の活性化, 集中力, 睡眠と脳の情報処理能力等)	④-1, 2身体的健康の維持・増進と学習効果のつながりを理解するとともに, 規則正しい生活, 運動, 栄養・睡眠など, 自らの生活実態を振り返り改善に向かう意識を高めることができた。身体だけでなく, メンタルな分野のケアが課題である。	特になし	④-1メンタルな分野の情報提供
④-2生活実態調査の実施と活用(保健, 専任)	④-2生活実態調査の結果を示し, 学力向上とのつながりを紹介した。(朝食摂取と脳の活性化, 集中力, 睡眠と脳の情報処理能力等)	④-2生活実態を振り返り改善に向かう意識を高めることができた。身体だけでなく, メンタルな分野のケアが課題である。	④-2継続実施	
④-3 食育教育の推進(食前-ダ-)	④-3各教科, 領域における食育全体計画を作成し, 校内での共通理解を深め組織的に実施した。家庭科においては, 家庭の食事をテーマに, 家族いっしょに食事することの大切さを考えた。	④-3 食事が家族のコミュニケーションしながら学んでいく大切な場であることを理解するとともに, 体調の自己管理能力, 困難に我慢強く耐える力, 諦めない力, 集中力等が育つことも知った。	④-3食育の推進(保護者への啓発))	
④-4 学校保健委員会での評価と改善(保健, 専任)	④-4 12/6 学校保健委員会を開催した。学校医, 学校歯科医より感染症やむし歯の予防対策, 生活習慣改善等について指導・助言を得た。	④-4年々多様化, 深刻化する健康問題へ適切な指導に向けての視座を得た。協議テーマを工夫し, 生活習慣改善意識の高揚, 学力向上の取り組みにつなげたい。	④-4「学力向上」に関するテーマの設定	
⑤-1魅力ある図書館づくり(情報, 図書)	⑤-1表紙を見せる等, 展示を工夫し生徒の多様な興味・関心に応える魅力的な図書を整備した。毎月発行の「新着図書案内プラス」では「先生からおすすめ」本	⑤-1生徒が積極的に足を運び読みたいという欲求を誘発し来館を促す手立てとなった。静かに読みふける場の提供ができ, 読書に対するモチベーションが上がった。	子供の読書離れが指摘される中, 快適に読書できる環境作りをして欲しい。 広い分野にわたる知識や多面的な	⑤-1生徒の企画展示(図書委員会活動の活性化)

	⑤-2学習と読書の関連性強化(備・図, 教員)	を数冊、表紙を印刷して紹介した。 ⑤-2日々「あさどく」のプリントを生徒・教員に配布し、現代社会の諸問題等を考えた。授業内でのブックトークを適宜行い、具体的な課題を提示するとともに教科の内容を掘り下げた。	⑤-2自発的・主体的な学習活動を支援することができ、知的活動の増進が図られた。読解力の向上とともに自ら学び自ら考える力を育む機会となった。今後、図書館司書と連携し、生徒が生徒に行うブックトークを考案したい。	ものの見方を養う意味でも読書は大切である。進路選択にも関係すると思うので読書の大切さを啓発して欲しい。	⑤-2生徒が生徒に行うブックトーク
	⑥-1進路情報の収集と効果的な提供(齋) ⑥-2 進路ガイダンスの充実(齋) ⑥-3他校との連携(齋) ⑥-4 各種体験活動の推進(齋, 教員)	⑥-1 1学期、進路指導主事がHR担任と連携し、3年生全員(188名)と進路室で面談し進路及び学習等についての指導助言、進路情報の提供を行った。 ⑥-2 12/12 学年別進路講演会(集会)を実施した。進路指導主事が「キミたちは何でそんなに『わかったげー』なんだろう」を命題として、生徒の実態を見据え学年に応じた講義をした。(主な内容は、入試及び制度について、進路選択・ここからすべきこと、今日まで・そして明日から) ⑥-3 7/21城ノ内、城北、徳島北、小松島高校と連携し、2・3年生対象の「夏の合同勉強会」に2名が参加した。 ⑥-4 10/24大学等模擬授業体験(2年)を実施した。徳島文理、四国大学から講師を招聘し8講座(60分)を設け2講座受講した。医師体験(一日医師体験)、看護・医療体験(ふれあい看護体験、医療体験セミナー、看護職になるための説明会、オープンホスピタル)、理学療法体験、農業インターンシップ等を紹介し積極的な参加を促した。	⑥-1生徒自身が自分を語ることで、自分を知り生かす方法に気づくとともに、自分の考えに修正を加えることができた。面談のさらなる成果をめざし、生徒の事前準備(心構え等)の指導を要する。 ⑥-2最新の入試動向等、生徒の進路実現に向けた多くのヒントを提供することができた。学年ごとに具体的な課題提示ができ、受験に向けた学習への意識変革につながった。与えられた情報や提案を自分なりに解釈し結論を出す力の育成が課題である。 ⑥-3国公立大学への進学に向けた学習法を学ぶとともに、相互刺激により「学び」に対する意識が高まった。 ⑥-4高校ではほとんど出会わないアカデミックな内容を受講することにより、学問の面白さや複雑さ等を知ることができた。様々な授業スタイルを体験し、大学進学への期待につながった。地域における第一線現場の体験を通して、それぞれの現状をよく理解し関心を高めることができた。やりがいや向き不向き等、広い視野で個々の将来設計を考える一助となった。	高い進路意識をもつ他校生と交流することを通して学習意欲の向上を目指して欲しい。	⑥-1受験体験記録の有効活用、大学等の来訪者への対応、情報周知 ⑥-2卒業生との交流 ⑥-3継続実施 ⑥-4 継続実施、活動報告と他への啓発

* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

総括評価表

重点課題 2
「支えあう仲間づくりと人権教育の推進」

重点目標	自己評価		学校関係者評価		今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価	総合評価	
(全体レベル) 一人一人を大切にし、互いに思いやり尊重する態度を育てるとともに、ともに学び励まし合い、支え合い高めあう仲間づくりをすすめる、生命や人権を大切にす意欲を培い実践力を身につける。	評価指標 人権学習ホームルーム活動満足度 95% (95%目標→92%達成)	人権学習ホームルーム活動満足度 81%	評価 B	総合評価 B	総合評価 (評定) B
	①学習における他の生徒との協力度 85% (85%目標→85%達成) ②個人人権課題「同和問題」取り扱い度 35% (45%目標→40%達成) ③校内外研究大会、研修会参加率 70% (70%目標→83%達成) ④人権講演会、研修会参加保護者数 200人 (270人目標→256人達成) ⑤地域研修会への参加教員数 10人 (25人目標→21人達成) ⑥特別支援教育相談活動に係る生徒、保護者の満足度 40% (93%目標→37%達成)	①学習における他の生徒との協力度 100% ②個人人権課題「同和問題」取り扱い度 27% ③校内外研究大会、研修会参加率 100% ④人権講演会、研修会参加保護者数 216人 ⑤地域研修会への参加教員数 5人 ⑥特別支援教育相談活動に係る生徒、保護者の満足度 34%	評定 A C B B B C	総合評価 B (所見) 人権学習ホームルーム活動だけでなく、授業を含む学校生活のあらゆる場面で他者を思いやる気持ちが育まれている。特別支援に係る生徒の支援体制も整っている。生徒をよく理解し、安心して楽しく学べる学校づくりを進める。	
(下位組織レベル) ①人権が尊重される人間関係づくり、仲間づくり (人権教育課、生徒指導課、全教員) ②人権学習、啓発活動の充実 (人権教育課) ③教職員研修の充実 (人権教育課) ④保護者との緊密な連携 (人権教育課) ⑤地域や関係諸機関等との積極的な連携 (人権教育課、生徒指導課) ⑥特別支援教育の充実 (生徒指導課)	活動計画 ①-1 落ち着いた学習できる環境作りと、グループ学習やペア学習などの協働学習の促進(鑑) ①-2 生活実態調査の実施や個人面談等でのいじめの実態の把握および対応(人権、生徒指導) ②-1 個人人権課題「同和問題」ホームルーム活動の計画的・継続的な実施(人権) ②-2 人権問題啓発講演会、映画会の継続的な実施(人権) ②-3 生徒の主体的な啓発(交流)活動の企画・実施、成果等の発信(人権) ②-4 校内人権問題意見発表会の実施(人権) ②-5 「阿波高人権の日」に係る生徒主体の啓発活動の実施(人権) ③-1 指導方法の工夫、改善を図る研修会の実施(人権)	活動内容(取り組み) ①-1 すべての教科及び人権学習において協働学習が取り入れられた(毎時間という意味ではない)。 ①-2 生活実態調査や個人面談等で、いじめの実態把握と対応が迅速に行われた。 ②-1 様々な人権課題を、3年間を通して系統的に学習できるよう実施した。 ②-2 5/24映画会『彼らが本気で編むときは』9/24土肥いつき氏による「ありのままの私を生きる」と題した講演会を実施。 ②-3 じんけん部員が主に3つの活動 ①「中・高生による人権交流会」関連会議②川島高校の生徒たちとの交流(インターネットでの人権侵害や戦争と平和について考えた)③四国大学でのイベントで移動式こども食堂啓発活動に参加。 ②-4 10/8選ばれた6名が個々の視点で人権問題についての考えを発表した。 ②-5 教員がその時期に応じた話題を提供し、事前に予習した人権委員に啓発活動を行ってもらった。 ③-1 学年別研修会および先行授業研究を行った。	成果と課題 ①-1 協働学習を継続することで、互いに学習内容の習得が促された。一方あまり興味のないことに対して、意欲的に学習できるような関係づくりに対する工夫がさらに必要である。 ①-2 生徒の学校生活の実態や人間関係を具体的に把握することができ早期発見につながった例もある。 ②-1 「模試のデータ入力に性別はなくてもいいのでは」など、学習が実生活へと結びつく場面を見かけることができた。課題としては「同和問題」を新たな切り口から学習できるよう、教職員の研修に改善が必要である。 ②-2 性的マイノリティの人権について映画で導入を行い、講演会で現実を知るとともに、この問題は他の人権課題を解決するのと同じ方法で解決していくものである—多数派の考え方を変えることが重要であると学んだ。 ②-3 学年、学校を超えた仲間が主体的に活動することにより、人権についての正しい知識と理解を深め、仲間と共同して人権問題を解決する意欲と実践力を養うことができた。 ②-4 友人が気付いた、見過ごされがちな人権問題を共有できた。 ②-5 来年度は人権委員にも資料作成を担当してもらうことで、さらに学習を深めてもらう予定である。 ③-1 HR活動内では考えられるが、さらに想像を膨らませ、相手の立場に立ったり、	学校関係者の意見 特になし 特になし	①-1さらなる仲間作りの方策を工夫する。 ①-2 継続実施 ②-1 同和問題に関する職員研修の充実 ②-2 講演会、映画会の継続的な実施 ②-3,4,5 じんけん部だけでなく人権委員や興味のある生徒たちとの活動の活性化 ③-1 他教科との連携の強化

<p>③-2各種研究大会，講演会への積極的な参加と報告の徹底(人権)</p> <p>③-3生徒と学ぶ研修会の実施(人権)</p>	<p>③-2 数名ずつの教職員が各種研究大会や講演会へ参加した。</p> <p>③-3 映画会・講演会とも生徒の感想を読んだり，担任や教科担任が授業の折に話題にしたりして，共に学んだ。</p>	<p>その場面に遭遇した時にどのように活動できるのかを考えたりすることは，まだまだ苦手である。他教科とも連携して，映像を用いたりしながら想像力を膨らませる活動を増やす必要がある。</p> <p>③-2 全教職員への報告の徹底ができなかったため，話ができただけしか内容の共有ができなかった。次年度は徹底する。</p> <p>③-3 アンケートをもとに来年度のテーマを熟考する。</p>	<p>③-2 報告書提出の徹底</p> <p>③-3 生徒の感想や教員の考えのフィードバック</p>
<p>④-1 P T A 役員会等での啓発活動(人権)</p> <p>④-2講演会等への参加呼びかけ(人権)</p>	<p>④-1 P T A 総会後，本校の人権教育について説明するとともに，パワーポイントを用いてフードロスについての研修会を行った。</p> <p>④-2 映画会及び講演会前には保護者向けの案内文書を配布した。</p>	<p>④-1 P T A 役員会や総会だけでなく，三者面談やホームページ等も利用して，啓発に努める。</p> <p>④-2 平日の午後の実施のためか，本年度は1名のみ参加であった。案内文書の配布方法を工夫したい。</p>	<p>参加者が1名の講演会があったようであるが，P T A 役員にも参加を呼びかけたらどうか。</p>
<p>⑤-1地域住民との交流活動の活性化(人権)</p> <p>⑤-2講師等の招聘(人権)</p> <p>⑤-3地域の幼，小，中との交流や市役所等との連携(人権)</p>	<p>⑤-1 柿原ふれあい会館祭に生徒6名教職員1名が参加した。</p> <p>⑤-2 今年度招聘はできなかった。</p> <p>⑤-3 地域の小・中の人権研究会に本校職員が参加した。</p>	<p>⑤-1 模擬店の販売活動(手伝い)を通して地域の方々と交流することができた。</p> <p>⑤-2 代わりに，地域で活動されている方の講演を聞き，知り合うことができたので，来年度以降話をさせていただけるよう計画する。</p> <p>⑤-3 小学校や中学校での学びを高校へつなげられるよう，研修の報告を徹底する。</p>	<p>特になし</p>
<p>⑥-1特別支援体制の確立(教育相談)</p> <p>⑥-2相談活動及び専門機関等へのコーディネート(教育相談)</p> <p>⑥-3教職員の生徒理解，支援能力の向上(教育相談)</p>	<p>⑥-1 既存の校内組織を活用して体制を整えた。当該生徒については，情報提供や教育相談を行い，本人や保護者の心情等に配慮しつつ支援した。</p> <p>⑥-2 迅速かつ適切なつなぎを心がけ，総合教育センターへの電話相談やスクールカウンセラー派遣事業につなぐなど，適切な相談活動及び専門機関等へのコーディネートを行った。</p> <p>⑥-3 7/8 鳴門教育大学准教授 阿形恒秀氏を招聘し「生徒理解の難しさと大切さ～いじめ問題等を考える中から～」の講演を聴き研修を行った。</p>	<p>⑥-1 各分掌との関連が図りやすく，会議や人員の効率化が図られた。生徒の認知スタイルや集中力等を考慮した配慮や工夫により，分かる授業が展開でき，また教職員の授業力・指導力の向上につながった。</p> <p>⑥-2 専門家による適切なアドバイスを受け，生徒への支援に役立てるとともに，保護者の心理的不安等の解消，学校教育への理解と協力を得ることができた。教職員の負担軽減が課題である。</p> <p>⑥-3 生徒理解を中心に生徒との向き合い方やいじめ問題等について学ぶことができた。本人を中心に支援者，家族といかに連携するかが課題である。</p>	<p>教育相談等，様々な取組をしているが，外部へ取組を発信することで保護者も安心するのではないか。生徒が教職員に相談できる環境にあるかをアンケートで聞いてもよいのでは。</p>

* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

総括評価表

重点課題 3
「キャリア教育、消費者教育の推進と進路実現」

重点目標	自己評価		評価		学校関係者評価	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価	総合評価	総合評価（評定）	
(全体レベル) 望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身につけさせ、主体的に進路を選択する能力と態度を育てるとともに、自立した消費者としての主体的な行動力を培う。 (下位組織レベル)	評価指標 進路決定率 100% (前99.5%) (100%目標→100%達成)	評価指標による達成度 進路決定率 99.5% (就職:100%, 進学:99.4%)	評定 B	総合評価 B (所見) 「学ぶこと」を能動的に捉え、社会や学問分野と個をつなげ、学びや社会の課題に向き合う姿勢を育てるキャリア教育を進めた。今後、単発のイベントに終わらせず、系統的、組織的な学習プランとして完成させたい。消費者教育は、自立した消費者として豊かな消費生活を営むために重要な役割を担う。消費生活センター等と連携しながら推進していきたい。	B	
	①望ましい進路意識育成度(進路講演会, 進路HR活動, 個人面談満足度) 80% (80%目標→78%達成) ②学年別進路保護者会出席率 55% (55%目標→38%達成) ③取得資格受験者数155人 (155人→174人) 最終合格率50% (50%目標→44%達成) ④消費者教育講演会の理解度・満足度 80%以上 (80%以上目標→82%達成)	①望ましい進路意識育成度(進路指導主事面談の満足度) 82.3% ②学年別進路保護者会出席率 44.5% ③取得資格受験者数 220人 (155人→174人) 最終合格率 51.8% ④消費者問題の関心度 82%	B C A B			
①組織的なキャリア教育の推進 ②進路情報の収集と確実な伝達 ③資格取得の奨励と補充学習の充実 ④組織的、系統的な消費者教育の推進	活動計画 ①-1効果的な読書活動の推進(図書) ①-2地域社会、産業界との連携(キャリア, 就職) ・社会人講師の招聘 ・企業、行政施設等の訪問 ①-3 大学・専門学校等との連携(進路) ・学部・学科説明会, 授業体験の実施 ・大学授業体験講座の実施 ①-4 環境教育の推進(1学年) ・学校林整備作業の実施 ①-5 総学と各教科の関連強化(総学・各教科)	活動内容(取り組み) ①-1「新着図書案内」や「図書館だより」の発行、廊下の掲示板を利用した新着図書の案内などによる啓発活動を行った。 ・総合探究と連携して集団読書(全学年)と絵本の読み聞かせ, ビブリオバトル(1年)を実施した。 ①-2 社会人講師の招聘や企業、行政施設等の訪問を考えていたが、実現できなかった。 ①-3 10/24大学等模擬授業体験(2年)を実施した。徳島文理, 四国大学から講師を招聘し8講座(60分)を設け2講座受講した。医師体験, 看護・医療体験, 理学療法体験, 農業インターンシップ等を紹介し積極的な参加を促した。 ①-4 11/13学校林整備作業を実施した。事前学習として, 10/30外部講師(元県立高校校長 西浦宏明氏)を招聘し「植生から見る徳島県の自然」について学んだ。当日は記念植樹, 下草刈り等を行った。また, 事後学習として, 12/7外部講師(鳴門教育大学 尾崎士郎氏)を招聘し「木育と木によるものづくり教育」について講義を受けた。 ①-5 キャリア教育全体計画を共通理解し, 各教科等の授業をキャリア教育の視点で捉え直し相互の関連を意識して進めた。	成果と課題 ①-1 貸出冊数の増加。 ・冊数だけでなく, 生徒の読書の質の向上を目標とし, 教員も本に関する知識を蓄え教育力向上につなげることが課題である。 ・本を身近に感じられるような取り組みを, 今後も継続して行っていきたい。 ①-2 次年度は, 地域社会の問題やその基盤となる学問分野について理解できる取り組みを考案し実施したい。 ①-3 アカデミックな内容を受講することにより, 学問の面白さや複雑さ等を知ることができた。様々な授業スタイルを体験し, 大学進学への期待につながった。地域における第一線現場の体験を通して, 現状をよく理解し関心を高めることができた。 ①-4 事前学習では, 森林や林業についての理解を深め, 学校林保全活動の意義を理解するとともに, 整備作業への意欲を高めることができた。当日は, 体験活動を通して, 森林保護の大切さを学び母校愛を育むことができた。また, 事後学習では学校林整備作業を「木育」という新しい視点で捉えることで, 日常の生活とのつながりを確認することが出来た。 ①-5 体系的・系統的なキャリア教育の展開が可能になった。培う資質, 能力, 態度の視点から指導方法を工夫する, いわゆる学ぶ方法からのアプローチが課題である。	学校関係者の意見 ビブリオバトル等の読書活動の推進や学校林整備作業を核とした環境学習は継続して欲しい。 学校林整備作業は他校にはない取組なので継続的な指導を希望します。	①-1生徒が生徒に行くブックトーク ①-2 社会人講師の招聘 ①-3 継続実施, 活動報告と他への啓発 ①-4継続実施 ①-5指導方法の工夫	
	②-1大学等の進路説明会への積極的な参加と報告(進路) ②-2進路保護者会(説明会, 講演会等)の充実(進路, 各学年)	②-1 生徒のニーズに応じて, 進学課員, 3学年の担任が県内外の大学, 専門学校等が主催する説明会に参加した。学年会等で報告し情報を共有した。 ②-2 各学年の現状と課題, 進路の現状及び学習状況を説明し, その後次のおり講演会を実施した。 9/16(3年生)演題:「入試直前情報と	②-1 個々の生徒に合う理想の進学先を決定する際の資料・情報の提供ができた。志望校選びや学習のモチベーション向上に資することができた。 ②-2 最新の入試動向など, 生徒の進路実現に向けた多くのヒントを提供することができた。保護者に対する意識づけ, 受験生の親としての心構えを伝えることができた。	特になし	②-1情報の全教員での共有 ②-2分野別ガイダンスの企画(看護等)	

<p>②-3進路のしおり発行 (進路, 幹)</p> <p>②-4組織的, 計画的な企業訪問の実施 (進路)</p> <p>②-5就職希望生徒への指導の強化 (進路)</p> <p>②-6保護者対象の進路相談日の開設 (進路)</p>	<p>受験生ここからサポート」講師：次橋秀樹氏, 10/8 (1年生) 演題：「大学進学と親の進路観」講師：進路指導主事 大窪俊之, 10/14 (2年生) 演題：「思春期のミカタ」講師：河本和代氏。</p> <p>②-3 7/11「進路のしおり第47号」を発行した。HR活動で各担当が, 卒業生の進路状況, 学習と進路選択等を説明し, 長期休業に向けての進路に応じた学習の心構えや教科別学習についてのガイダンスを行った。</p> <p>②-4 年度当初, 管理職, 就職担当教員が卒業生の進路先を訪問し, アフターケアを行った。6月以降, 生徒が希望する職場の開拓を進めた。直接事業所に足を運び, 生の情報を収集するとともに, 面談等を通して保護者と情報共有した。</p> <p>②-5 従来の履歴書作成, 面接指導のほか, 確実な進路先決定に向けて, 生徒の職場見学・体験を積極的に行った。</p> <p>②-6 日程等の調整ができず, 進路相談日を開設することができなかった。</p>	<p>個人面談では, 大学入試等についての理解をさらに深めることができ, 生徒の将来についての意見交換等を通して, 保護者と教職員がともに生徒を支えていくことの大切さを再認識できた。</p> <p>②-3 夏季休業中の学習意欲の向上, 学習方法の理解につながり, 進路を考える効果的な情報発信となった。進路に係る教科書として, HR活動等で定期的に活用する。また, 保護者等への有効なガイダンス資料としていきたい。</p> <p>②-4 事業所及び保護者と密接に連携し情報交換することにより, 進路決定に向けて迷いのある生徒や不安を持つ保護者の確かな進路先決定に貢献できた。就職希望者全員が希望する進路に進んだ。1年次, 2年次からの早期アプローチが課題である。</p> <p>②-5 実際の業務の見学や体験を通して, 職に対するイメージを確かめることができ, 就職先決定の一助となった。</p> <p>②-6 進路相談日開設に向けて, 日程, 方法等を検討したい。</p>	<p>②-3進路保護者会での活用</p> <p>②-4 1年次, 2年次のガイダンス充実</p> <p>②-5継続実施</p> <p>②-6進路相談の充実</p>
<p>③-1資格取得講座の開設 (進路)</p> <p>③-2取得ガイダンスの充実 (進路)</p>	<p>③-1 英語検は6/1 (1次), 6/30 (2次) 10/5 (1次), 11/3 (2次), 1/25 (1次), 2/23 (2次) に実施した。数学検定は2/17に実施した。数学検定は7/20, 11/9, 2/15に1次, 2次を実施した。それぞれ放課後, 個別, グループ別指導を行った。</p> <p>③-2 各検定とも特徴とメリット等について, ポスター掲示とともにパンフレット等を通して受験案内を行いチャレンジを促した。</p>	<p>③-1 英語検定は第1, 2回で97名受験し2級10名, 準2級33名が合格した。第3回は100名が受験し2級9名, 準2級44名が合格した。数学検定は第1, 2回で14名受験し2級1名, 準2級9名が合格した。第3回は9名が受験し, 準2級が4名合格した。</p> <p>③-2 将来の進路を踏まえた学びに活かされ自信や学習意欲の向上につながった。資格の意義や必要性等について早期のガイダンスを行い, 取得意欲の向上に努めたい。</p>	<p>特になし</p> <p>③-1継続実施 指導体制の構築</p> <p>③-2保護者会でのガイダンス実施</p>
<p>④-1 知識, 経験を持つ人材の活用 (消費者教育担当)</p> <p>④-2 魅力ある授業の展開 (各課)</p> <p>④-3 教科間の連携 (各課)</p>	<p>④-1 3/13四国大学 加渡いづみ教授を講師として招聘し, 消費者教育講演会を</p> <p>④-2 消費者庁が作成した「社会への扉」を活用し, 授業を実施した。家庭科を中心に, ICTを活用した授業を展開するとともに映像教材 (DVD等) の教材の開発を行った。</p> <p>④-3 公民科と家庭科が連携して消費者教育に取り組んだ。</p>	<p>④-1 国連サミットで採択されたSDGsを日本語訳し, 阿波高版を制作した。またエシ</p> <p>④-2 現在起こっている消費者問題について知ると共に, 対処方法について学ぶことができた。</p> <p>④-3 他教科の関連する内容を確認し, 連携に留意しながら消費者教育を推進できた。学校行事, 総合的な学習の時間との連携を視野に全体計画を再構築し, 学習の深化を図りたい。</p>	<p>特になし</p> <p>④-1講演会の実施</p> <p>④-2教材の開発</p> <p>④-3具体的な消費者教育全体計画の再構築とコーディネーターの育成</p>

* 「評定」の基準 A: 十分達成できた B: 概ね達成できた C: あまり達成できなかった D: 全く達成できなかった

総括評価表

重点課題 4

「基本的生活習慣の確立と規範意識の育成」

重点目標	自己評価		評価		学校関係者評価	今後の改善方策		
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価	総合評価	総合評価（評定）			
(全体レベル) 愛情と信頼に満ちた人間関係を構築し、社会の一員としての責任と義務を自覚させるとともに、自律心を養い規範意識を醸成する。 (下位組織レベル) ①頭髪・服装指導の徹底 ②遅刻者の減少 ③授業規律の確保 ④交通事故の防止と通学マナーの向上 ⑤家庭、地域、関係機関との連携 ⑥教育相談機能の充実	評価指標 生徒の規範意識度 99% (98%目標→98%達成)	生徒の規範意識度 98%	評定 B	総合評価 評定 B	総合評価（評定） B			
	①頭髪・服装違反率 1%以下 (1%目標→1%達成)	①頭髪・服装違反率 1% (1%目標→1%達成)	A	(所見) 子どもの将来を考え時間や労力を惜しまず、心に訴え心に響く心を動かす指導を行っている。 交通安全は、平和で安全な生活を守る基本である。様々な場面で生徒にアプローチする。今後も継続して地域・関係機関と連携し、定期的に情報交換を行い強化していきたい。				
	②遅刻者数(日平均) 3.0人以下 (2.5人以下目標→3.8人達成)	②遅刻者数(日平均) 3.8人 (2.5人以下目標→1.9人達成)	A					
	③携帯電話使用に係る指導数 4以下 (4目標→9達成)	③携帯電話使用に係る指導数 8 (5目標→8達成)	C					
	④交通事故発生件数 4件以下 (4件目標→6件達成) 違反報告者数(阿波吉野川警察署) 3 (0目標→9達成)	④交通事故発生件数 6件 (5件目標→6件達成) 違反報告者数(阿波吉野川警察署) 0 (0目標→1達成)	B					
	⑤地域の街頭補導の参加者数 40人 (40人目標→40人達成)	⑤地域の街頭補導の参加者数 40人 (40人目標→40人達成)	A					
	⑥3者面談実施率 130% (130%目標→128%達成) 教育相談週間実施数 3 (3目標→3達成)	⑥3者面談実施率 128% (130%目標→128%達成) 教育相談週間実施数 3 (3目標→3達成)	B					
	活動計画 ①-1教職員の共通理解(情報共有)(指)	活動内容(取り組み) ①-1学年会において、頭髪・服装指導について共通理解と情報共有を行った。	成果と課題 ①-1,2,3服装・頭髪の乱れはほとんどなく、高校生らしい清潔な服装・頭髪であった。本校がもつ伝統的な学校風土が維持できた。再点検を要する生徒が若干名いたが、指導の意義等を理解し、振り返りと気づきにより再登校指導に至らなかった。女子のスカート丈が極端に短い生徒はいなかったが、化粧に対する指導が課題である。				学校関係者の意見 在校生が出席しない卒業式ではあったが、卒業生は服装・頭髪のみだれや私語もなく、素晴らしい式であった。 学校生活の基本である服装指導が徹底できているので今後ももしっかり指導して欲しい。	①-1,2,3 継続指導頭髪に対する指導の徹底
	①-2生徒指導全校集会の実施(指)	①-2 4/8, 5/6, 6/5, 9/2, 10/1, 11/1, 1/8, 2/14 生徒指導全校集会を実施し、生徒指導主事の講話の後、各学年別に頭髪・服装指導等を行った。	②-1,2,3遅刻者数は、1日当たり1年が0.59人、2年が0.67人、3年が0.63人であった。(1月末現在)。昨年に比べ減少した。遅刻の要因を振り返らせ、遅刻という行為の結果や責任の重さを理解させ、社会のルールやマナーの内在化を図ることが少し改善できた。通院等の理由もあるが、生活習慣の乱れや自己管理能力が危惧される。保護者と連携し、遅刻しにくい学校風土の再構築を要する。				特になし	②-1,2,3 回数に応じた指導、家庭との連携強化
	①-3服装・頭髪指導週間の設定と改善指導の強化(指)	①-3年間8回(4/8-11, 5/6-9, 6/5-11, 9/2-4, 10/1-4, 11/1-5, 1/8-10, 2/14-17)期間を設定して実施した。	③-1生徒自身が自覚的に学習秩序を保ち、主体的に授業に参加する質の高い学びに向かっている。教室移動直後の準備遅れがある。先を見通した行動を呼びかけたい。				特になし	③-1 学習規律の確保
②-1遅刻指導週間の実施(指)	②-1,2,3各学期に1回(4/15-19, 10/21-25, 2/3-7)期間を設定して実施した。	③-2生徒は趣旨等を理解し、ほとんどの生徒が遵守できたが、8名(1.4%)が指導を受けた。	特になし		③-2 教師間の共通理解、共通実践			
②-2生徒指導主事、学年主任、管理職等による改善指導の徹底(指)	②-2「遅刻カード」を提出させ遅刻理由の確認や生活指導等を行った。また遅刻常習者を把握し、学年を中心に組織的な改善指導を行った。	④-1登校時の自転車通学マナー、下校時のバイクの飛び出しがなくなり、安全意識の行動化が図られた。自転車、バイクともに整然と駐輪できており、駐輪マナーの向上が認められた。整備不良や故障箇所の改善、施錠の習慣化が課題である。	特になし	④-1 事故遭遇時の対応指導				
②-3呼び出し個別指導、面談の実施(指)	②-3改善が認められない生徒に対しては、変えるチャンスと捉えて呼び出し、個別指導を行い、また面談を通して背景や理由を掴みどこをどう改善すれば遅刻がなくなるかをともに考えた。							
③-1始、終業の挨拶・マナーの徹底(鑑)	③-1チャイムが鳴る前に教師が教室に行き、着席、授業の準備状況等を確認し、チャイムと同時に挨拶する。当たり前のことを繰り返し指導した。							
③-2携帯電話使用規則徹底(鑑)	③-2「携帯電話、スマートフォンの使用」に係る校内規則を策定し、これに基づき原則、始業から終業まで使用禁止とした。							
④-1通学時の校門、駐輪場指導(指)	④-1登校時、当番教職員2名が校門に立ち登校マナー、挨拶、身だしなみ等の指導を行った。下校時は教頭、生徒指導主事等がバイクの出入り口に立ち一時停止、左右確認等の指導を行った。駐輪場は計画的に見回り整理整頓を徹底した。							

<p>④-2通学路点検，街頭指導の実施(生指)</p> <p>④-3 自転車，バイク車体検査の実施(生指)</p> <p>④-4二輪車実技講習会の実施(生指)</p> <p>④-5 交通安全講演会の実施(生指)</p>	<p>④-2 毎月20日の学校安全の日(8月除く)の登校時に街頭指導を行った。交差点等14か所に正または副担任が立ち，自転車，バイクの安全，マナー等の指導を行った。</p> <p>④-3 10/10 自転車安全整備士による訪問点検を実施した。阿波吉野川警察署員とともに，第1学年自転車通学生の自転車を自転車整備点検表をもとに行った。</p> <p>④-4 7/17 阿北自動車教習所で第2学年対象に原付安全実技講習会を実施した。原付免許取得者21名が参加し，ブレーキとバランス走行を行い，指導助言を受けた。また交差点事故の実技検証を実施し個々のケースに学んだ。</p> <p>④-5 7/11 阿波吉野川警察署交通課長を招聘し，交通講話を実施した。</p>	<p>④-2 通学時安全，マナー指導だけでなく，これを通して，通学時の交通量を把握したり危険事情を察知することができた。学校周辺の地理的認識が深まり，事故発生時の早期対応に活かされた。</p> <p>④-3 点検表をもとに生徒の整備状況を把握することができ，部品交換等，具体的な改善指導ができた。</p> <p>④-4 実技等を通して安全走行技能をはじめ，危機予測や察知，対応能力を身に付けることができた。交通事故の実際を具体的に知り交通安全の重要性を認識した。</p> <p>④-5 自転車事故の事例を通して，ヘルメット着用のメリットを知り，交通安全意識は高揚したが，ヘルメット着用の習慣化にはつながらなかった。</p>	<p>④-2 継続実施</p> <p>④-3 継続実施</p> <p>④-4 継続実施</p> <p>④-5 ヘルメット着用指導の工夫</p>
<p>⑤-1PTA役員会等での情報提供(生指)</p> <p>⑤-2 警察，補導センターとの情報交換(生指)</p> <p>⑤-3 地域の街頭補導の実施(生指)</p> <p>⑤-4 全国交通安全運動への参画(生指)</p>	<p>⑤-1 PTA役員会，総会時に自転車通学に係る交通違反，事故等の現状について報告した。また，ヘルメット着用の現状やメリットについて説明し主体的な着用を促した。</p> <p>⑤-2 生指協等を通して阿波吉野川警察署，補導センターと定期的に情報交換し，内容を職朝等で職員に連絡した。</p> <p>⑤-3 阿波市青少年補導員連絡協議会主催で，生徒指導主事等が5回吉野町内の巡視を行った。保護者の巡視参加はなかった。</p> <p>⑤-4 春(5/11-5/20)，秋(9/21-9/30)の全国交通安全運動期間に，生徒が地域の交通安全委員と協力し沿道に立ち，交通安全の呼びかけた。</p>	<p>⑤-1 保護者が自転車通学の現状(地域の評価含む)を理解し，学校・家庭間の信頼関係が構築できた。相互の指導により，「自転車にはヘルメットが当たり前」という文化の醸成が課題である。</p> <p>⑤-2 関係機関との密接なネットワークにより地域の治安等についての情報収集が可能になった。これにより，先手を打った予防及び指導が実現した。</p> <p>⑤-3 校外では特に不良行為を行っている生徒はいなかったが，「地域の子は地域で育てる」という意識が醸成され小・中・高の連携が深まった。</p> <p>⑤-4 呼びかけを通して交通安全意識が高揚し啓発活動としての効果があり，地域への貢献意識が芽生えた。</p>	<p>特になし</p> <p>⑤-1 家庭との連携強化</p> <p>⑤-2 継続実施</p> <p>⑤-3 保護者参加の要請</p> <p>⑤-4 継続実施</p>
<p>⑥-1保健室相談機能の有効活用(教育相談，養教)</p> <p>⑥-2情報の共有化と支援プランづくり(教育相談)</p> <p>⑥-3専門家による研修会の実施(教育相談)</p> <p>⑥-4教育相談週間の設定(教育相談)</p> <p>⑥-5スクールカウンセラーの派遣(教育相談)</p>	<p>⑥-1 養護教諭がカウンセリング機能を発揮し，家庭での問題や身体，性に関する悩み等を聴き適宜担任等に報告した。</p> <p>⑥-2 「支援を要する生徒」について，必要に応じて教科担任会を開催し情報交換を行い，指導の方向性等を検討した。</p> <p>⑥-3 7/8 教育相談職員研修会を人権教育課と合わせて実施した。鳴門教育大学准教授 阿形恒秀氏を招聘し「生徒理解の難しさ〜大切さ〜いじめ問題等を考える中から〜」，9/24 人権教育課の生徒への研修において土肥いつき氏を招聘し「ありのままのわたしを生きる」の講義を聴き，職員も同様に研修を行った。</p> <p>⑥-4 年間3回(4/8-4/13，7/22-7/26，12/24-12/27)教育相談週間を設定し，個別面談等を行った。</p> <p>⑥-5 7/12心理的な要因により学校に来れない生徒の支援について，スクールカウンセラーを招き，保護者とのカウンセリングを実施するとともに，支援方法について指導・助言を受けた。</p>	<p>⑥-1 養護教諭の情報が生徒理解に役立った。生徒の状況を把握するとともに，指導やカウンセリングの必要性の有無を判断できた。</p> <p>⑥-2 前年度からの引き継ぎ資料や他教科での様子等の情報共有ができた。</p> <p>⑥-3 いじめ問題を考える中で不安を抱えた生徒への対応方法を聞き，生徒理解についての研修ができた。また，生徒とともに講演を聴き，自分らしく生きるとはどういうことかについて感じたり考えたりすることができた。</p> <p>⑥-4 生徒の不安や悩みにいち早く気付くことができ，学年等で情報を共有することができた。</p> <p>⑥-5 予備軍のリーサーチと早期対応に功を奏した。また，子育てや子どもの接し方などで悩みを抱えている保護者が，スクールカウンセラーとのカウンセリングを通して不安が払拭され心の安定を保つことができた。</p>	<p>10月，11月に進路の悩み等で保健室の利用数が増えるようなので，生徒の不安や悩みを解消できるよう対応して欲しい。</p> <p>また，子供の体を動かす機会が減り，ケガをする生徒が増えていると聞いている。学校体育の重要性が増しているのではないか。</p> <p>⑥-1, 2, 3, 5 継続実施</p> <p>⑥-4 面談時間の確保</p>

* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

総括評価表

重点課題 5
「特別活動の活性化と豊かな人間性の育成」

重点目標	自己評価			学校関係者評価		今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価	総合評価	総合評価(評定)	
(全体レベル)	評価指標 生徒のHR活動満足度 83% (83%目標→83%達成) 生徒の学校行事満足度 84% (84%目標→84%達成)	評価指標による達成度 生徒のHR活動満足度 83% (83%目標→78%達成) 生徒の学校行事満足度 84% (84%目標→92%達成)	評定	総合評価	総合評価(評定)	
創造的な活動を通して集団、社会の一員としての自覚を深め、よりよい生活、環境づくりに主体的に取り組む意欲と実践力を育てる。	①新企画数 3 (3目標→3達成) ②部活動加入率 87% (87%目標→91%達成) 全国大会出場部活動数 6 (6目標→5達成) ③文化祭肯定評価 82% (82%目標→86%達成) ④ボランティア活動参加者数 50名 (50目標→70達成)	①新企画数 3 (3目標→3達成) ②部活動加入率 87% (87%目標→87%達成) 全国大会出場部活動数 4 (6目標→5達成) ③文化祭肯定評価 92% (阿波高祭事後アンケート) ④ボランティア活動参加者数 85名 (50目標→85達成)	B	A	A	
(下位組織レベル)			B	(所見) 規範意識、公共の精神の低下が指摘される中、様々な地域貢献活動の実践を通して、社会貢献の意識を高めるとともに豊かな人間性・社会性を育てている。		
①生徒会の活性化 ②部活動の充実・活性化 ③学校行事(学校祭等)の活性化 ④ボランティア活動の推進	活動計画 ①-1 生徒による新しい活動の企画、運営(縮) ①-2 学校行事への主体的な参画(縮) ①-3 社会貢献活動の企画・実施及び参加(縮)	活動内容(取り組み) ①-1 文化祭では阿波高フェスを企画してシンガーソングライターの深里氏をゲストに呼び、生徒の積極的な参加を促した。また、1年生の積極的な参画を促し、次期リーダーの育成に努めた。 ①-2 生徒会「体育委員会」「文化委員会」が学校祭の計画・準備、「厚生委員会」が体育祭救急処置補助(記録、搬送、アイシング準備等)を積極的に担った。 ①-3 12/13 生徒会役員7名がマルナカ柿原店前で犯罪被害防止啓発キャンペーンに参加した。警察と連携し「犯罪被害に阿波0(あわない)」をキャッチフレーズに各種犯罪被害防止を呼びかけた。	成果と課題	①-1,2 学校行事の見直しを行い、生徒主体の立場に立って生徒の意思を統合自治的集団活動の基本的視点が芽生えてきた。生徒会の持つ本来の意義や役割を十分理解させた結果、前期生徒会役員に4名(副会長2,書記2)が当選した。次期のリーダーが確実に育っている。 ①-3 地域社会への貢献や地域とのつながりが深まり、様々な地域社会の人との関わりがコミュニケーション能力を伸長させた。また、自分自身を振り返り自己の存在を確かめることができ、モラルやマナーを自主的に考え自ら行動する力も育っている。	学校関係者の意見 特になし	① 継続実施
	②-1 顧問と生徒、保護者との良好な人間関係づくり(部活顧問) ②-2 部活動顧問会議の開催と意見交換(部活顧問) ②-3 管理職への報告・連絡・相談の徹底(部活顧問) ②-4 部活動のスリム化(縮) ②-5 活動及び結果等の広報活動(部活顧問)	②-1 日常的に生徒の個性を尊重した指導等を行った。部活動保護者会を年度当初、大会出場前後等に行い、指導方針や年間計画等を説明した。試合や公演時等において保護者と顧問が話をし活動状況等の情報伝達を行った。 ②-2 学期に1回、部活動顧問会議を開催し、部員の状況や年間の取り組み等情報交換を行った。体罰禁止、熱中症対策の徹底等を確認した。 ②-3 夏季休業前に環境・厚生課が「けがなく充実!!夏の部活動」を作成し、熱中症の予防と対応について職員に周知した。怪我や熱中症等についての報告を徹底した。 ②-4 生徒数減に伴う教員数減に対応するため、部の再編、統合を行ったがこれまで24のままである。 ②-5 中学生及びその保護者には、8/8体験入学時に、部活動紹介を行うとともに、中学校進学説明会等でも広報した。地域		②-1 生徒との人間関係が良好になり、自由に意見を出し合える雰囲気醸成された。試合等に保護者が積極的に参加し、顧問と保護者の人間関係が築かれ協力体制が確立した。部費等も適正に管理できている。 ②-2 各部の目標や取り組みを理解するとともに、民主的な運営、好ましい人間関係の育成、学習との両立、安全指導、安全管理等について共通理解を図ることができた。部活動顧問の協働体制が確立した。 ②-3 実施上の注意が喚起され、報告の徹底と報告内容のポイントが周知でき安心・安全な部活動を推進できた。予防に努めた結果、大きな事故には至らなかった。危機管理意識が定着した。 ②-4 複数顧問体制が維持でき、事故防止と健康・安全確保に留意した指導ができた。 ②-5 日頃の練習等を体験することにより、本校部活動への理解及び中学生の進路に関する目的意識の高揚を図ることができた。	体育部で部員数が多い部活動がある反面、部員不足に悩む団体競技があるようだが、生徒数減のなか致し方ない面があるように思う。	② 継続実施

	<p>③-1生徒の主体的な活動支援(縮)</p> <p>③-2学校祭広報活動の工夫(縮)</p> <p>③-3来場者が楽しむコンテンツの導入(縮)</p>	<p>については、ホームページや地域広報誌に掲載した。</p> <p>③-1 予餞会をアエルワで行い、生徒からの企画を取り入れるなどし画期的な予餞会となった。</p> <p>③-2 リーフレットを作成し、各中学校、小学校に配布した。</p> <p>③-3 生徒厚生委員会が生活習慣病予防の保健展を実施して、睡眠の重要性を啓発した。</p>	<p>ホームページの管理を徹底し、最新の情報提供を心がけることが課題である。</p> <p>③-1 生徒が主体的にセレモニーを企画し運営した。映画「ボヘミアン・ラブソディ」を鑑賞し卒業生と在校生が同じ場所で同じ映画を観ることで親睦が深まった。</p> <p>③-2 近隣の小・中学生が、保護者、祖父母とともに多数来場した。</p> <p>③-3 就寝前のスマホの利用時間やストレスチェック等のアンケートをすることで、睡眠の重要性について気づかせることができた。</p>	<p>特になし</p>	<p>③ 継続実施</p>
	<p>④-1地域清掃活動の充実(顕彰)</p> <p>④-2校外のイベントボランティアの参加(特活)</p>	<p>④-1 5回「地球環境を守る日」(5/27、6/24、11/1、12/16、2/14)を実施した。学校周辺の道路等の清掃活動を通して地域を理解し住民との交流を深めた。のべ935人が参加した。これに毎回多くの教員が参加した。</p> <p>④-2 8/24・25 24時間テレビ「愛は地球を救う」街頭ボランティアに9名の生徒が参加し募金活動を行った。</p>	<p>④-1 自主的、主体的な活動を通して、社会貢献できている実感と達成感が得られ、地域を大切に思う心が育った。「役立ち感」を醸成し自律的な自己実現や次の学びにつなげることが課題である。</p> <p>④-2 「呼びかけーお礼」等を通して心の交流が図られ、やりがいや充実感を得るとともに、コミュニケーション能力が育った。地域に貢献する奉仕の精神の涵養とできることを行動化することで自己肯定感が育った。</p>	<p>特になし</p>	<p>④ 継続実施</p>

* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

総括評価表

重点課題 6
「環境美化と健康、安心・安全な学校づくり」

重点目標	自己評価			学校関係者評価		今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価	総合評価	総合評価(評定)	
(全体レベル) 創造的な活動を通して集団、社会の一員としての自覚を深め、健康、安全な生活、環境づくりに主体的に取り組む意欲と実践力を育てる。	評価指標 校内美化に関する満足度 65% (65%目標→43%達成)	評価指標による達成度 校内美化に関する満足度 57.5% (教員76% 生徒38.9%)	評定	総合評価	総合評価(評定)	
	①職員室のクリアデスク実施率65% (65%目標→44%達成)	①職員室のクリアデスク実施率37%	C	B		
	②電気使用量前年度比 2%減 (2%目標→6%達成)	②電気使用量前年度比 3%減	C	生徒の衛生美化意識、環境・エコ意識は期待値に達していない。クリアデスク等、教職員の率先垂範した取組が必要である。防災教育は、地域との連携が重要であり、これを視野に入れた訓練等を取り入れていきたい。		
	③生徒の防災意識度 75% (75%目標→70.2%達成)	③生徒の防災意識度 68.6%	A			
	④生徒の朝食摂取率 92% (再掲) (92%目標→92.9%達成)	④生徒の朝食摂取率 92.5%	B			
⑤生徒の野菜摂取率 75% (75%目標→78.35%達成)	⑤生徒の野菜摂取率 78.3%	A				
(下位組織レベル) ①衛生・美化意識の高揚 ②環境教育の推進 ③防災教育の充実 ④健康意識の高揚と啓発活動の充実 ⑤食育の推進及び啓発	活動計画 ①-1 日常の清掃活動の徹底(競艇) ①-2 教室等のゴミ分別の徹底(競艇) ①-3 一斉大掃除の計画的実施(競艇) ①-4 職員室の整理・整頓(クリアデスク)(鉄員)	活動内容(取り組み) ①-1 環境・厚生課作成の清掃分担にHR担任が人数を配置し、監督教員と連携した。 ①-2 ゴミ分別の意義等の知的理解を図り「ゴミは分別する」という意識を育てた。分別状況を調査し、改善を促した。 ①-3 年間行事計画に基づき、学期に3回、計9回一斉大掃除を実施した。学期の初めと終わりのほか、外来者を迎える行事等の前に教員も率先垂範して生徒とともに清掃活動を行った。 ①-4 教職員の意識改革とロッカー活用を促し、机上の整理・整頓に努めるとともに、コンプライアンスの視点から自己啓発、自己評価を行った。	成果と課題 ①-1 開始時間が守られ、多くの生徒が一生懸命持ち場の清掃に取り組んだが、みんなで使う場所を大切にするという公共心を養う必要がある。 ①-2 ゴミの分別度は86.7%で「あまりできていない」と評価したHRが2つあった。 ①-3 一斉大掃除の計画的な実施により、定期的に学校内外の美化が図られた。来客等を迎える意識や態度、作法が育っている。しかし、廊下、トイレの清掃状況に格差が認められ、監督、指導の強化が課題である。 ①-4 机上の整理・整頓は個によって差異が明確であった。個の性格はもちろん、業務の煩雑さや多忙化も徹底できない要因にある。工夫と改善が必要である。	学校関係者の意見 特になし	① 清掃の意識改革	
	②-1 学校林整備作業の実施(1輦)	②-1 11/13 松契会や板野郡森林組合の方々の協力を得て、学校林整備作業を実施した(1年生)。本校のもつ学校林を舞台に下草刈り、丸太切り大会等、大自然の中で環境学習を実施した。		②-1 森林の機能や仕組みを理解するとともに森林を守ることの大切さについて考え、環境保全の精神や母校愛が育まれた。活動を通して、生徒と教職員、生徒相互のコミュニケーションが活性化し豊かな人間関係づくりが進んだ。 ②-2 節電・節等の行動が顕著にあらわれ、生徒も教員も共に環境に対する意識が高まった。気づきと自主性が育ち、地域の人々との連携が深まった。	特になし	②-1 事前・事後学習の充実 ②-2 継続実施
	③-1 学校防災計画の作成と職員への周知安全点検の実施(錕)	③-1 5月に学校防災計画を策定し、全教職員に配付し内容を確認した。一斉の安全点検は実施できなかったが、業者の点検に同席した。		③-1 各自の任務と責任を自覚し、グループのメンバー間の連帯意識が高まった。点検を通して施設・設備の場所等を再認識できた。 ③-2 災害の現状を深く理解し、ディスカッション等を通して避難所運営の在り方を学んだ。人権課題を認識し、解決しようとする意識や態度が育った。 ③-3 避難行動やその後の避難所生活について避難者の思いを理解できた。受け身ではなく地域に対しての具体的な行動を通じて学	防災教育のワークショップは阿波高校の特長となってきている。今後、地域の防災指導者との連携ができればよいと思う。	③-1 計画的な安全点検の実施 ③-2 人権感覚の育成と行動力の向上 ③-3 継続実施
	③-2 防災教育ワークショップの実施(1輦)	③-2 11/1 都留文科大学から高田研教授を招聘し、1年生を対象に「防災と人権」に関するワークショップを実施した。				③-4 実際に即した訓
	③-3 教職員研修会の実施(錕)	③-3 防災教育ワークショップに参加し講義やワークショップを通して、被災地や避難所の状況、防災教育の重要性を学				

<p>③-4効果的な訓練の実施(指)</p> <p>③-5地震等発生時(深夜,休日等)の迅速な対応(指)</p> <p>③-6被災地支援と防災啓発活動(縦クラブ)</p>	<p>んだ。</p> <p>③-4 7/5, 11/1 緊急地震速報対応訓練を実施した。終了後,防災教育を行い,避難経路の確認,家族との安否確認の方法等を話し合った。</p> <p>③-5 本校の「防災計画」に基づき対応することを確認した。</p> <p>③-6 オリジナル防災グッズ「携帯MYトイレ」を製作し,文化祭で地域の方々200名に配布し,非常時のトイレ問題を考えてもらう一助とした。</p>	<p>ばせる防災教育の必要性を実感した。</p> <p>③-4 身の安全を確保する初動行動が身につく,冷静に対応することができるようになった。災害時における危機を認識する日常的な心構え等,防災リテラシーが育ってきている。</p> <p>③-5 「防災計画」に基づき各自が分担内容や手順等を認識し,災害に備える意識を持続させることが肝要である。</p> <p>③-6 文化祭のみならず,地域のイベントなどでオリジナル防災グッズ「携帯MYトイレ」を配布したことにより,非常時のトイレ問題について考えることにつながった。</p>	<p>練の実施</p> <p>③-5 効果的な教材開発</p> <p>③-6 防災グッズのさらなる開発</p>
<p>④-1心肺蘇生法・食物アレルギーに関する講習会の実施(競艇生)</p> <p>④-2「保健だより」の効果的な活用(競艇生)</p> <p>④-3厚生委員会活動の活性化(競艇生)</p> <p>④-4保護者,関係機関との連携(競艇生)</p> <p>④-5学校保健委員会の充実と結果の活用(競艇生)</p> <p>④-6生活習慣改善プロジェクトの実施(競艇生)</p>	<p>④-1 5/15 荻野裕平氏(大島器械)を招きAED講習会を実施した。続いて養護教諭が講師となりエピペン使用講習を行った。</p> <p>④-2 「保健だより」の教室掲示に当たり事前にHRで内容説明を行った。内容は生徒の健康課題に合ったものやタイムリーな情報を集め,見やすいレイアウトを工夫した。</p> <p>④-3 健康で安全な学校づくりを目指し,手洗い場の管理(石けん液,消毒液の交換・補充),身体計測・健康診断の補助,文化祭の保健展等,年間を通して幅広い活動を支援した。</p> <p>④-4 7/18 学校薬剤師 三好健司氏を招いて薬物乱用防止教室,12/17,東部保健福祉局 猪井子氏を招いてがん予防の講演を実施した。</p> <p>④-5 12/6学校保健委員会を開催した。学校医,学校歯科医により,感染症やむし歯の予防対策や生活習慣改善等について指導・助言を得た。内容については,保健だより12月号に掲載し生徒,教職員に知らせた。</p> <p>④-6 夏季休業中,健康力アップ30日作戦を実施した。健康を目指し生活習慣改善に向けての身近な取組を継続的に行った。適切な目標設定を指導し70%実現を目指した。</p>	<p>④-1 正しい心肺蘇生法及びAEDの使用方法を理解し,救急処置を必要とする傷病者への迅速かつ適切な対応能力を身につけることができた。エピペン注射の使用方法を理解し,重篤な食物アレルギー症状への対応力を身に付けた。</p> <p>④-2 教室に掲示するのみでなく,保健の知識や関心を高めることができた。聞き手の問題意識を促し意識の啓発ができた。</p> <p>④-3 厚生委員自らが保健・衛生の重要性について認識するとともに,委員としての役割を果たすという責任感が育った。</p> <p>④-4 薬物乱用の現状と薬物の種類を理解し,害や依存性の恐ろしさを認識した。誘いに対して断る力を身に付けることが課題である。がん予防については,がんにかからないための望ましい生活習慣の確立やがん検診の重要性についての理解ができた。</p> <p>④-5 学校医・学校歯科医等との連携が密になり,年々多様化,深刻化する健康問題への専門家の立場からの指導・助言によって,適切な対応が可能になり,効果的な保健活動の展開につながった。</p> <p>④-6 身近で簡単な目標を立て意識化することにより,個々の生活を見直し健康な生活とは何かを考える機会となった。スマホの長時間使用による睡眠不足や生活リズムの乱れに対する取組が今後の大きな課題である。</p>	<p>エピペン使用生徒が数名いるようなので引き続き講習は必要であろう。</p> <p>④-1 シュミレーション実習の導入</p> <p>④-2 継続実施</p> <p>④-3 継続実施</p> <p>④-4 継続実施</p> <p>④-5 講話や教職員研修の導入</p> <p>④-⑥ 継続実施と教科との連携</p>
<p>⑤-1食育全体計画の組織的な実施(食前-ター)</p> <p>⑤-2学校家庭クラブの啓発活動(縦クラブ)(家庭・地域への情報提供)</p>	<p>⑤-1 各教科,領域における指導内容を整理し体系的に全体計画を策定した。</p> <p>⑤-2 8/31~9/7の間,本校家庭クラブ委員が野菜の日(831)にちなんで製作した野菜摂取啓発ポスターを廊下に掲示し,野菜摂取の必要性和現状について促した。また,野菜摂取を目標に各自が考えたレシピコンテストに1学年170名が応募した。</p>	<p>⑤-1 生徒の実態に応じた取り組みができた。今後は各教科および家庭との連携が課題である。</p> <p>⑤-2 徳島県の糖尿病死亡率ワースト問題など様々な情報を提示することで野菜摂取の必要性を認識し,野菜料理もう1品という昼食の改善へつながった。またレシピコンテストでは全国の高校生6,749点応募から,50周年記念特別賞に本校生(1年)が選ばれた。</p>	<p>特になし</p> <p>⑤ 地域との連携</p>

* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

総括評価表

重点課題 7

「学校、地域の活性化と新しい学校づくり」

重点目標	自己評価		評価		学校関係者評価	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価	総合評価	総合評価（評定）	
(全体レベル) これまでの教育を充実・発展させるとともに、大学入試改革等、社会の変化に対応した多様な教育を創造し、地域に根ざした活力と魅力ある学校づくりを推進する。 (下位組織レベル) ①教育活動の見直しとスリム化 ②高-大、高-社会への円滑な接続 ③本校教育の地域への還元 ④広報活動の充実 ⑤組織マネジメントの定着 ⑥主権者教育の充実	評価指標 令和元年度中学生進路希望調査に係る本校希望生徒数 定員の1.2 (1.2倍目標→1.13倍達成)	令和元年度中学生進路希望調査に係る本校希望生徒数 定員の1.21倍	評定 A	総合評価 B (所見) 新学習指導要領、大学入学者選抜改革の動向を踏まえつつ、教育内容を検討、実践した。地域に根ざした活動を、生徒主体による取組としてさらに活性化させたい。学習により培った力が他者や社会に貢献することを実感し、「生きる力」に繋げていくことができるよう、今後も、地域と強く連携できる学校づくりを推進していきたい。	総合評価（評定） B	
	①職朝3分以内実施率 80% (96.5%目標→60%達成) 職員会議1時間以内実施率 70% (70%目標→67%達成) 行事削減率 2.%(5%目標→3%達成)	①職朝3分以内実施率 65% 職員会議1時間以内実施率 80% 行事削減率 3%	B			
	②外部講師活用数 30 (30目標→31達成)	②外部講師活用数 30	B			
	③地域交流実施数12 (12目標→12達成)	③地域交流実施数14	A			
	④体験入学参加者数 400名 (450目標→337達成) 学校説明等訪問中学校 10校 (10目標→9達成)	④体験入学参加者数 362名 学校説明等訪問中学校 9校	C			
	⑤行事報告書(評価記入済) 100% (100%目標→100%達成) ⑥政治への関心度 95% (95%目標→95%達成) 学校行事、HR活動等実施数 8 (8目標→7達成)	⑤行事報告書(評価記入済)提出率 100% ⑥政治への関心度 91.4% 学校行事4、HR活動2、総学2 計8	A B			
活動計画 ①-1教育活動の選択・集中とゆとりの確保(数) ①-2 教職員の意識改革と既成概念からの脱却(数) ②-1課題探究的学習等の工夫(数) ②-2「総合的な学習・探究の時間」の充実とガイダンス機能の強化(給,1,2年組) ③-1 近隣中学校との授業交流 ③-2 保育実習の効果的な実施(数) ③-3 文化活動等、地域のイベントへの積極的な参画(数)	活動内容(取り組み) ①-1 教育活動のスリム化を目指し、日々の教育活動が生徒にとって価値ある活動かを見極め、学校行事の厳選、実施時期の変更に努めた。 ①-2 限られた時間内に処理するという意識を育むとともに、生活リズムの意識的変化を目指した。 ②-1,2 日常生活や社会に目を向けさせ、疑問や関心を高める働きかけ(事象提示)を行うとともに、様々な課題に先進的に取り組んでいる人等を講師に招き講演会を実施した。総合の時間ではテーマ学習を行い、適宜ワークショップを導入することで、問題解決に向けての協同的な学びを実践した。1年では夏に大学授業体験講座を、2年では修学旅行中に企業やユニセフでの「選択研修」を実施し、探究活動の質的な充実を図った。 ③-1 吉野中学校教員が、本校1年生の授業を参観し、意見交換を行った。 ③-2 6/4~27の間に1学年178名が保育体験学習に取り組んだ。また、2・3歳児を対象に防災教室を実施した。 ③-3 ダンス部が、11/3 阿北自動車学校祭に参加し、イベントを盛り上げた。音楽部・ダンス部が3月に予定していた	成果と課題 ①-1 必要性の中から生み出した教育活動を止めることは難しかったが、校時程の変更により、生徒の学校生活全般にゆとりを生じ、教職員にとっては、効率的な職務遂行の契機となった。 ①-2 教職員の経験による価値観を変えることは難しかった。業務の重要性や順序立てを意識した働き方や業務処理能力を向上させる必要がある。 ②-1,2 ものの見方やとらえ方が豊かになり、主体的に取り組む姿が見られるようになった。また身近な様々なテーマや人(講師や大学教授等)との出会いが刺激となり、強い課題意識を持って物事を考える姿勢が培われた。さらに自己と結びつけて生き方を考える姿が認められた。自然、社会、文化に関わる体験活動の推進が課題である。 ③-1 中高の交流ができたが、今回は数学1教室のみだったので、次年度は本校で複数教科での参観交流を実施したい。 ③-2 園児との触れ合いを通して、子供の多様性や成長の過程への理解が深まるとともに、集団保育の意義や重要性を認識することができた。 ③-3 日ごろの練習の成果を発表するとともに地域の芸術文化振興に貢献できた。	学校関係者の意見 特になし 特になし	①-1 継続実施 年度当初の日程から順次再編成する。 ②-1,2 継続実施 木育等のSDGsに基づく課題等へのアプローチを検討。 ③-2 継続実施		

<p>④-1 ホームページの充実(情報教育課)</p> <p>④-2 文化祭等での広報活動(特活課)</p> <p>④-3 中学校説明会への参加(教務課)</p> <p>④-4 学校公開(授業等)の実施(教務課)</p> <p>④-5 学校案内メディアの開発(教務課)</p>	<p>舞台芸術発表会は、感染拡大防止のため中止となった。</p> <p>④-1 2月末現在の部活働の更新状況は、平均0.85回で昨年より悪化している。学校行事、部活働を中心に、ホームページの更新に努めた。</p> <p>④-2 1年生が大学授業体験講座で学んだことを踏まえ各テーマについて調べたことや課題等を模造紙にまとめてポスターセッションを行った。</p> <p>④-3 依頼のあった9中学校の進学説明会等に校長と教務主任が出向き、スライドにより本校教育の概要等を説明した。</p> <p>④-4 行事計画をホームページに掲載し、11/1学校公開を行った。</p> <p>④-5 写真・動画等の更新、新しい教育課程の提示等、よりわかりやすい内容に変更した。</p>	<p>④-1部活動の平均更新回数は全体的に低下し、未更新の部活も半数あり、全体の底上げが課題である。全体の更新回数は月平均2.1回でかなり悪化しており、積極的な情報発信が求められる。</p> <p>④-2 将来、大学等での学習を視野に入れた新しい学びのスタイルを実践している本校の教育を紹介することができた。</p> <p>④-3 中学校の生徒・保護者等に本校への理解を深めていただくとともに、進路選択に役立つ情報発信ができた。中学校教員からは良好な評価が得られた。</p> <p>④-4 学校訪問者はなかった。これまで周知方法等様々に工夫してきたが成果は得られていない。「普通」科の高等学校であることが地域に浸透している。</p> <p>④-5 新しい学びや特徴的な学校行事等を強調し、他にない本校の魅力や将来のビジョンを発信することができた。</p>	<p>生徒、保護者のメールアドレスを学校は預かりにくいので、学校からの情報発信は、HPを通しての発信が良いと思う。</p>	<p>④-1更新状況の日常的なチェックと周知。</p> <p>④継続実施</p> <p>④-3 継続実施</p> <p>④-4 継続実施</p> <p>④-5 写真・動画の精選を更に進める。</p>
<p>⑤-1 学校評価システムの適切な運用(類)</p> <p>⑤-2行事計画書の報告、評価の徹底(類)</p> <p>⑤-3 目標管理シートとの連動性強化(類)</p>	<p>⑤-1前年度の評価結果等を踏まえ、根拠をもって評価指標、活動計画を策定した。</p> <p>⑤-2行事の目標を明確にし、目標達成に向けた具体的計画を策定した。その際「期待される成果」を具現化した態度や行動としてあげ評価の視点とした。</p> <p>⑤-3「自己申告」という参画を前提に、学校の教育目標、経営方針とのすり合わせを行い、組織の要請と個人の欲求の統合を図った。</p>	<p>⑤-1学校全体の教育活動の見直しや改善を図る機運が高まった。学校評価委員会で確認と教職員の合意形成が課題である。</p> <p>⑤-2やりっ放しを払拭し反査と気づきの精度があがったが、主観的評価の域を脱していない。客観的評価と評価結果を次年度に行かすことが課題である。</p> <p>⑤-3 目標連鎖についての理解が進み、上位の目標を意識して、自らの役割を踏まえた目標設定ができた。方策の具体的記載が課題である。</p>	<p>特になし</p>	<p>⑤ 継続実施</p>
<p>⑥-1主権者教育教職員研修会の実施(公民科)</p> <p>⑥-2全体計画の作成と実施(公民科)</p> <p>⑥-3教科、領域間の連携(全員)</p>	<p>⑥-1,2,3 主権者教育における学校全体の目標を明確にし、教育活動全体を通じて主権者教育を行うための全体計画を策定した。これをもとに、4/12主権者教育教職員研修会を行い、教職員間での目標・計画の共通理解を図った。また12/18阿波市選挙管理委員会の協力を得て、2年生全員を対象に選挙スクールを実施した。</p>	<p>⑥-1,2,3 学校行事、HR活動等での実施数は目標を達成できたが、政治への関心度が目標を下回った。教育活動全体における連携や、効果的な実施方法・活動内容の工夫を通して、生徒自身が主権者としての自覚をもって、国や地域の課題に関心をもち、主体的に学習活動に取り組めるようにすることがさらなる課題である。</p>	<p>特になし</p>	<p>⑥-1,2,3 総合的な学習・探究の時間、HR活動との連携</p>

* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった